

# こちら海老川町進路指導部 『こち海老』

2023年10月16日

第4号

発行

青森県立田名部高等学校  
進路指導部

## 推薦入試に向けて・・・

### 3年次の推薦入試対策が本格化

10月に入り、大学の学校推薦型・総合型選抜の出願が始まりました。2学期中間考査も終わり、推薦入試に向けた対策が本格的に始まっています。面接・小論文・集団討論など、それぞれの選考方法に合わせた指導を先生方から受け、放課後遅くまで熱心に取り組んでいる生徒の姿を見かけます。学校推薦型・総合型選抜の受験では、その大学や学部でなければならない強い志望理由が必要です。また、基本的に受験までのスケジュールは自分で組み立てていく必要があります。先生方のサポートを受けつつ、受験までに何をすべきか考えて主体的に動いていきましょう。自身の進路実現に向け、しっかりと対策していきましょう。

### 1、2年次のみなさんがすべきこと

1、2年次のみなさんも、自分が受験生になった時のことを想定し、自身の進路実現のために今できることを見つけて取り組んでいきましょう。学校推薦型・総合型選抜を視野に入れているのであれば、日頃の勉強はもちろん、探究活動や課外活動にも積極的に取り組みましょう。本校でも、様々なチャンスがあります。たとえば「総合的な探究の時間」では、1年次で探究の基礎を学び、2年次から様々な課題について本格的に調査活動や実践報告をしています。また、定期的に行っている「Theプロフェッショナル」では、外部から講師を招き進路講演会を実施しています。視野を広げ、今のうちから色々なことに挑戦し、充実した高校生活を送りましょう。自分の好きなこと・興味のあることについて情報収集し、深く考えた経験は、進路を考える上で必ず役に立つはずですよ。



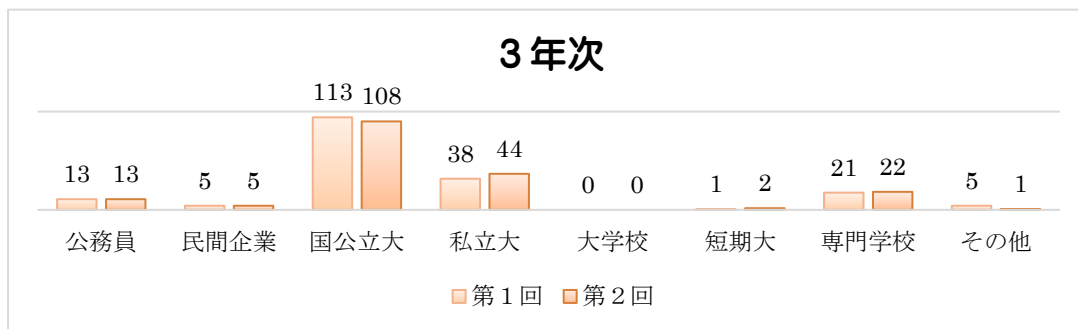
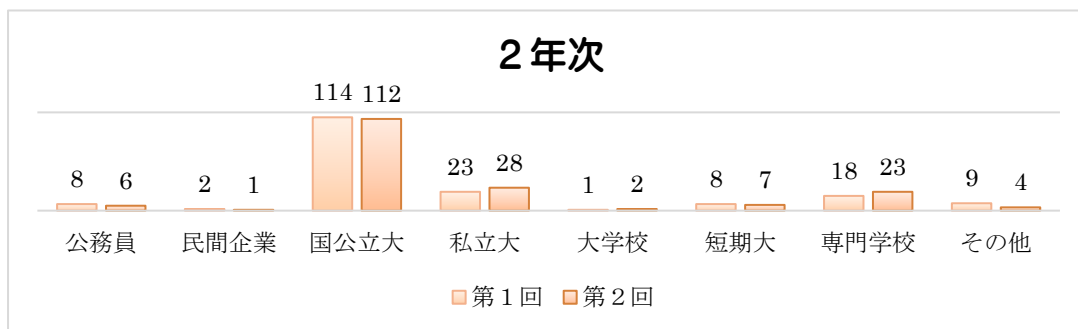
これは勉強の話

バスケットボールW杯すごかったですね。高校生の頃NBAファンだった私は久しぶりに楽しみました。特に印象に残ったのはベネズエラ戦の比江島慎選手です。渡邊選手が「いつもの比江島慎やから、あれが」といい、富樫選手が「今日普通ですよ。毎試合やれよー」といじってました。もちろん比江島選手も、いつだって「やろう」と思っているはず。でも、常に全力を発揮できるとは限らないものです。

バスケットボールはハビット(習慣)スポーツといわれます。トランジション(切り替え)が激しく、コマ何秒で状況が変わるので考えている時間は無い。瞬時に反応しなければ間に合いません。ではどうするか。反復を継続し、習慣化することで無意識的に制御できるようなことです。三位決定戦アメリカ対カナダ戦、試合終了四秒前、四点差を追いついたアメリカのブリッジス選手の三点シュートも体が反応したのではないのでしょうか。

さて、それでは何を習慣化するのかといえば、ファンダメンタル(基礎基本)です。パス、ドリブル、シュート、ハンドリング、ステップなど。ボールを見ながら利き手でしかドリブルができないのならクロスオーバーはできません。また、習慣には良い習慣もあれば悪い習慣もありますから、良い習慣を身につけるように気をつけましょう。

# 第2回進路志望調査の結果



**国公立大学志望比率**

1年次  
第2回 70.4 %

2年次  
第1回 62.2 %  
第2回 61.2 %

3年次  
第1回 59.1 %  
第2回 55.1 %

8月末に第2回進路希望調査を実施しました。どの年次も、第一志望が一番多かったのは国公立大学でしたが、4月に実施した第1回から2年次・3年次については志望者が減少していました。自分の将来を考え、実現させるためにより良い選択ができるよう、視野を広げて様々な情報を集めましょう。進路希望が決まっている人は、進路実現のために必要なことに取り組んでいきましょう。

## 模試を活用しよう！

10月に入り、3年次は毎週のように様々な模擬試験が実施されています。1、2年次も来月11月に模試を控え、より一層勉強に励んでいることと思います。授業内容の確認の意味合いを持つ定期考査とは異なり、模試はこれまでに習ったことのほとんどが範囲となり実力が問われるものとなっています。だからこそ、どのように取り組むかが大切になってきます。そこで、模試の活用方法について紹介していきます。

まず、模試をただ受けて終わりになってはいませんか？受験後すぐに自己採点は実施していますが、日々の勉強や次の模試に追われ、それ以降振り返りをしていない人も多いのではないでしょうか。記憶が新しいうち（1週間以内）に復習することで自分の弱点や得意分野を把握し、今後の具体的な学習方針を立てていきましょう。

また、結果が返ってきたら判定や順位を見て一喜一憂するだけになっていませんか？志望校の判定は、「その時期にこのくらいの成績を取っていた先輩のうち〇%が合格していた」というもの。あくまで現時点での割合“模擬”試験での結果で、この判定で合否が決まることはありませんので、楽観的にも悲観的にもならないようにしましょう。見返すべきなのは、得点率が低いとされたところ、そして答案です。自分の弱点を知るためなのはもちろん、答えだけでなく記述がどのように、どうして減点されているかを見直してみましょう。たくさん問題を解くことも大切ですが、自分の記述・答案作成が正しいのか振り返ることもとても重要なことです。

以上のように、1つ1つの模試に丁寧に向き合い、最大限生かしていきましょう！！

